肝内胆管癌における糖代謝関連蛋白発現とmRNA発現の解析

【はじめに】

肝内胆管癌は肝臓に発生する悪性腫瘍で肝細胞癌に次ぎ2番目に多く、依然として予後不良な疾患です（図1）。治療は原則として外科的切除が施行されていますが、有効な治療薬はいまだ不十分なのが現状です。肝内胆管癌の悪性化や浸潤に関連する蛋白の解析は、悪性度や予後の予測、新たな治療法の確立などにつながることが期待されています。

【対象】

1989年2月22日から2005年10月21日までの間に当院形態機能病理学教室において肝内胆管癌と診断された方の組織標本（約150症例）を対象に研究を行います。対象者になることを希望されない場合は、下記連絡先まで連絡をお願いいたします。

【研究内容】

九州大学形態機能病理学教室において診断された肝内胆管癌病変の組織標本を使って、組織型や悪性度で分類し（図2、図3）、癌細胞のエネルギーになる糖の代謝に関係する蛋白（グルコース トランスポーターなど）や蛋白の前駆物質であるメッセンジャー（m）RNAの発現、および予後との関係について観察します。

この研究を行うことで患者様に日常診療以外の余分な負担は生じていません。

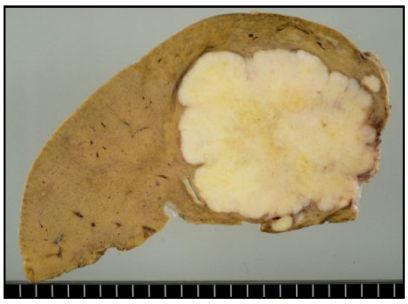

図1. 肝内胆管癌（肉眼像）

【患者様の個人情報の保護について】

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、氏名、カルテ番号などの個人を特定できる情報を削除し、匿名化した上で、データの数字化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

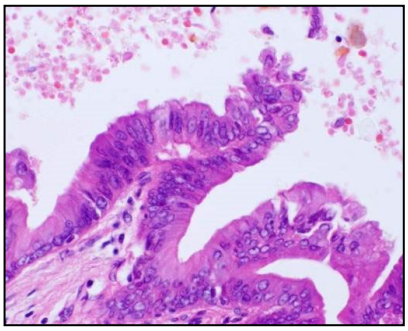

図2. 前癌病変（組織像）

【研究期間】

承認日から2014年 3月31日まで。

【医学上の貢献】

肝内胆管癌のさまざまな組織型や浸潤度における形質発現の相違を解析することにより、肝内胆管癌の病理学的診断の精度向上、予後を予測する因子の解明、また肝内胆管癌の早期発見や治療の確立につながる可能性がある、など医学上の貢献はあるものと考えます。

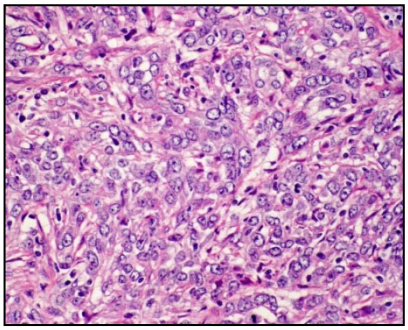

図3. 肝内胆管癌（組織像）

【研究機関】

九州大学大学院　形態機能病理

教授　　小田　義直

准教授　　相島　慎一

大学院生　　久保　雄一郎

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-6071　担当：久保　雄一郎